

会計学(午後・財務会計論)

本試験

第 4 問

問題 3 貸借対照表の純資産の部に表示される自己株式に関する次の問 1～問 3 に答えなさい。

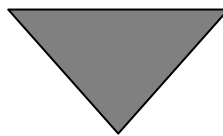
問 1 当社は、自己株式 10,000 株を 1 株当たり 1,250 円で取得し、それに関連する手数料 120,000 円とともに現金で支払った。このとき、当社は、手数料について次のような仕訳を考えている。

(借) 自己株式 120,000 (貸) 現金 120,000

①この仕訳の基礎にある考え方、②現行制度における考え方、および③現行制度における考え方に基づく適切な仕訳のそれぞれについて説明しなさい。

《解答 1》

①この仕訳の基礎には、手数料等の、自己株式の取得に要した付随費用の支払いを、形式的には株主との取引ではないが、自己株式本体の取引と一体と考え、資本取引とみる考え方がある。これに対し、②現行制度では、自己株式の取得に要した付随費用は株主との間の資本取引ではない点に着目し、当該付随費用を会社の業績に係る財務費用と考え、損益取引とみる考え方を採用している。③現行制度における考え方に基づく、借方は自己株式ではなく、支払手数料等の科目をもって営業外費用として処理される。



論文グレードアップ答練 第2回

第五問

問1 現行制度上、株式交付費は費用として処理（繰延資産に計上し償却する処理を含む。）することとしているが、この理由について説明しなさい。

《解答1》

現行制度上、株式交付費を費用として処理するのは次の理由による。①株式交付費は株主との資本取引に伴って発生するものであるが、その対価は株主に支払われるものではない。②株式交付費は社債発行費と同様、資金調達を行うために要する支出額であり、財務費用としての性格が強いと考えられる。③資金調達の方法は会社の意思決定によるものであり、その結果として発生する費用もこれに依存することになるため、資金調達に要する費用を会社の業績に反映させることが投資家に有用な情報を提供することになると考えられる。